

日にち：令和7年7月18日（金）
場 所：図書館交流プラザりぶらホール

誓いの言葉

1945年（昭和20年）7月20日、岡崎市には数時間にわたり12,000発を超える焼夷弾が投下され、約280人の尊い命が奪われました。容赦ない空襲により一瞬で火の海と化し、町は見る影もないほど壊滅しました。

多くの市民が家や家族を失い、衣食住さえままならない、極めて過酷で絶望的な日々を送らざるを得ませんでした。恐怖と苦しみと、どうにもならない悲しみを、全身で受け止め、それでも懸命に生き抜いた方々がいました。そして今も、その記憶を抱えて生き続けている方々がいます。

今の岡崎市は四季折々の自然に彩られた、美しく穏やかなまちです。子どもたちの笑い声が響き、家族が安心して暮らし、地域がつながるこの日常は、決して当たり前のものではありません。命懸けで守ろうとした家族、まち、そして未来。その積み重ねの上に私たちは今、こうして生きているのです。

今年は戦後80年という節目を迎えます。80年という歳月は長いようでまだ戦争の傷が心に残っている方々が生きている時代でもあります。私たちはそのような方々の記憶を語り紡いでいく責任があります。

保育者となる私たちが出来ることは、命と平和の大切さを伝えていくことです。

絵本を通して、命について語ること。喧嘩をした時一緒に考え、仲直りの道を探すこと。泣いている友達に「大丈夫？」と声をかける優しさを、そっと受けとめ、育てていくこと。

小さな行動の1つひとつがこの世界を平和にしていく力になると私たちは信じています。

先人から託された、この緑美しい街岡崎を失わないよう、そして日本が再び戦争の惨禍を起こすことがないように、私たちは平和を強く願い、その大切さを未来に繋いでいくことを誓います。

令和7年7月18日 岡崎女子大学 栗田華